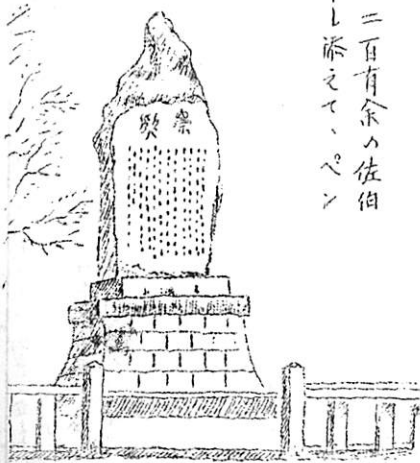


郡市の文化財を採訪する機会を折々持つているが、市所  
 持でこれらに文化財の保護、顕彰、宣伝に力を入れてい  
 ることが分つて、心温まるものがある。然るに佐伯市は  
 まだ文化財の指定をしていない段階で、この面での立ち  
 おくれを乞ふことば出来ぬ。文化財の扱いについて前  
 向きの施設を要望し、三の丸の御殿について、その一  
 環として、その保存について深甚の考慮を望ぶ次第であ  
 る。

就いては左記四項を掲げて、市当局当業者の考慮を求  
 める。

- (一) 文化会館を、問題のない地を選んで建てることば出  
 来ないか。
  - (二) 三の丸に建てるとしても、御殿は是非残してほしい。
  - (三) 御殿の位置を変えることは好ましくないが、止むを  
 得ざれば解体移転なり引き移転なりして、三の丸の  
 中に残し、稀少価値の高い此の文化財を保存してほ  
 しい。
  - (四) 更に唯残すでなしに、此の建物ノ歴史にふさわしい  
 活用の方法を考えてほしい。
- 以上及びとり筆者の希望のみでなく、二百有餘の佐伯  
 史談会員全員の切なる声であることと申し添えて、ペン  
 を擱く。

(田原阪崇勲碑)



研究

田原阪崇勲碑

西南の役古戦場の碑文

益田 啓

はじめに

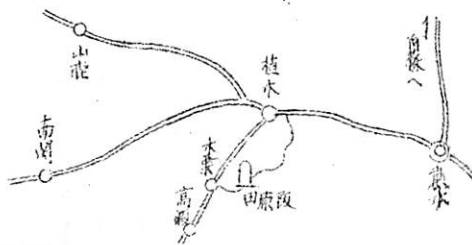
西南の役の激戦地として有名な田原阪は、大牟田から  
 熊本市へ向う国道二百八号線の中開地、木葉から植木に  
 通する間道を約一キロ西南下した  
 地点にある。

記念碑のある田原阪の頂上附近  
 は、前合にわたるがな丘陵で、き  
 りくに公園化され、

記念碑もあり、当時  
 の激戦と物語る多敷  
 の弾痕をとりためた古  
 い民家一棟も現存し  
 ている。

此の記念碑は総高  
 約六メートルの大き  
 な大理石の自然石で、  
 碑面上部に有柳川宮  
 権仁親王の御添筆になる

「崇勲」の文字が、篆書体で力強く陰刻さ  
 れ、其の下方に同殿下の横文が、十四行に  
 あり、陰刻されている。碑文の書者は佐伯  
 に古縁深い長月新太郎先生であり、楷書体



で力強く陰刻されている。

鹿兒島縣於鹵海地最廣人最勇而西鄉隆盛名望蓋世  
至海内人士擬其進退以為安危明治十年二月隆盛反

圍熊本城

天皇震怒發兵討之熾仁任總督之責陸軍中將山縣有  
朋海軍中將川村純義為參軍賊分兵扼植木山鹿兩道  
進入高瀬廿七日我軍擊破高瀬粵四日拔木葉賊還據  
田原阪之險而熊本圍益密援路皆絕夫田原之為地兩  
崖壁立徑踞崎嶇賊悉精銳築堅壘咆哮出沒有如虎狼  
要害異形攻守殊勢而我軍殊死戰不舍晝夜十有七日  
遂拔之死傷四千餘人此役也鏖戰前後數百而未有如  
田原阪之劇也苟此阪而不拔使賊破南関而北則四方  
不逞之徒必乘釁而起禍不可測而不使其至此遂速致  
討滅者實由此一捷嗚呼死者之功大矣而不及見焉痛  
哉因建碑阪上以記之蓋所以勸獎忠烈也

災

崇

明治十三年十月

陸軍大將二品大勲位熾仁親王撰文並篆額

陸軍省六等出仕從六位勲五等秋月新太郎書

(右訓読)

散見馬は鹵海に蘇り地最も廣く人最も勇、而  
 して西御陸盛の名望は世を蓋い海内に至る。  
 人士は其の進退を候い以て安危を為せり。明  
 治十年二月隆盛反し熊水城を圍む。  
 天皇は震怒し兵を發して之を討つ。熾仁は總  
 督の責に任じ陸軍中將山縣有朋、海軍中將川  
 村純義は爲に軍に參ず。賊は兵を分ち植木、  
 山鹿の兩道を扼し進みて高瀬に入る。廿七日  
 我軍は高瀬を擊破し、粵えて四日本葉を抜く。  
 賊は退きて西原阪の險に據る。而れども熊本  
 の圍は益々密く援路皆絶ゆ。夫れ田原の地た  
 る、兩崖壁立、徑路崎嶇、賊悉く精銳、堅壘  
 を築き、咆哮出沒虎狼の如き有り。要害は形  
 正異にし、攻乎殊勢にして我軍殊死して戰う  
 こと晝夜を舍かず。十有七日、遂に之を抜く。  
 死傷四千餘人。此役也、慶戰前後數百にして  
 未だ田原阪の劇しきに如くもの有りざるなり。  
 苟くも此阪にして板はず賊をして南關を破り  
 て北せしめば則ち四方不逞、徒は必ず露に乘  
 じて起ち、禍測るべからず。而るに其をして  
 茲に至らしめず遂に速かに討滅を致せし者は  
 實に此の一捷に由る。嗚呼。死者の功は大なり。  
 而して吾を見るに及ばざるは痛ましき哉。

因りて碑を阪上に建てて以て之を記すは蓋し志  
 烈を勸奨する所以なり。

明治十三年十月

陸軍大將 二品大勲位熾仁親王撰文並に篆額  
 陸軍省六等出仕従六位勲五等秋月新太郎書

(諸註)

二品(にほん) 昔ハ親王の第二ハ位階。明治十九年建立  
 の「敬愷の碑」には式品(二品)親王ハ位階(第一階)

鹵海(るかい) 塩からい南國の海、海内(かいだい) 国内、

候(うかがう) 扱(やく) おさう、とりひしぐ。

粵(えつ) 越 漫(まん) 退

壁立(へきりつ) 崖(がべ) 如く立つ。 徑路(けいろ) (がいろ) こみち。

崎嶇(ききう) 山(やま) の險(けん) しきこと。 咆哮(ほうこう) (ほうこう) 虎(こ) のたけり

殊死(しゆじ) (しゆじ) しにものぐるい。 慶戰(けいせん) (けいせん) 虎(こ) のたけり

露(る) (る) みにまごろし。

捷(せい) (せい) 不(ふ) 不(ふ) 不(ふ)

踏(ふみ) 路(みち) 不(ふ) 不(ふ) 不(ふ)

西原に文化城をたずぬて 用 柴 弘

櫻本の宮の高槻落葉して

塔古りて高きそよ風の葉の朱く

友分親也文殊仙寺の塔の上